

磐城時報

本報社址 磐城郡平町四丁目
電話 〇三三三
印刷所 加納印刷所
發行所 磐城時報社
一部金 〇五元
廣告料 行書 半角 印刷 五分
▲日刊 (日曜、祭日休刊)

今日から二日

飯野八幡例大祭

美観を添へる才榎小路
青年團の献燈

平町八幡小路鎮座飯野八幡宮例れも雨用意をしながら天を仰いで大祭は愈々明日二日に亘り執行でうららめしきとされる、此の十四日は宵大祭とし日没頃から始める参詣の群衆に今年は才榎小路の青年團が衆は無慮幾方さしにも廣い裁判發起して雪洞數百ヶを献燈する所前から八幡宮までの大道路も事になり既に装ひ凝らした雪洞行來の群衆で身動きも出来ないが長坂の登り口から裁判所前まのが例、今年も天候さへよけて装飾され今年最初の試みだければ平町は勿論近隣飯野、平窪にその美観を期待されて居り坂好間、赤井、神谷等各村から参登り口の平陽女學校でも例によ詣の群衆が津浪の様に押し寄せつて生徒の作品バザーが今日かる筈だが、皆や朝來からの曇天が開催されて居り天候さへよける時々降雨さへ見せる不順な天候れば例年に、層の輪をかけて人で今日を書入れの路店商人連各出に賑ふものと豫想される。

今秋シーズンの最大

豪華磐陽野球大會

大會總裁に青沼平町長推戴
警中平商以下強豪出陣

磐陽野球聯盟主催の磐陽野球大會は入山、古豪先鋒幾多の會は既報の如く来る二十三、四名選手を擁する全平軍等合計八兩日警中グラウンドに於いて開始チームで龍虎相搏つ當日の激戦する事に決定したが参加チームは今秋シーズン最大の豪華版と磐陽球界の二大花形チームたしてファンの血を逆流せしむる警中、平商を始め都市對抗戦に充分なものあり殊に新陣容をに出場した郡下の最強チームと編成來年の中等野球大會に覇を

成さんと逸早くも猛烈な練習を開始した警中、平商兩チームは此の大會に必勝の意氣物凄く來春卒業の舊選手と新人選手の混成チームによつて猛練習を加はへて居り實業野球界の猛者入山全平以下も兩花形チームの攻撃を迎えて完全な勝利は保し難いと見られてゐる。

郡下海産物の 販路擴張を企圖

産業視察團を組織
關西地方を視察

石城郡下の海産物は最近京濱地方に販路が擴張されつゝあるに鑑み平窪では水戸事務所の助力により管内の鮮魚、鹽干、物等の荷主を動員し産業視察團を組織し十八日から五泊六日の旅程で京濱、信州、中京方面の主要都市を訪問各都市の當業者と懇談し商取引上の圓滑並に増加を圖るである筈此企ては荷主の販路開拓とトラックに侵略されつゝある鐵道自身の更生策で一石一鳥の名案でその成果を期待されてゐる。

郡内各濱一齊に 昨日鰯の大漁

今秋第一の漁獲に
活氣横溢の各濱

不漁續きの石城各濱では連日近郡濱地方最大の鰯漁に各濱漸海漁業に出動中の小形漁船が昨く活氣付いてゐたが小名濱の小十三日に至り小名濱沖から四倉形漁船は當日各れも千百圓内外沖一帯にかけ朝來から鰯の大漁の漁獲あり今秋職漁業の不漁にあり同日午前中のみで最高千圓火の消えた様な寂しさを呈せてから五百圓内外の漁獲あり午後同町も此豊漁に全町全く蘇も引續いて大漁を見てゐるが本生した様に活氣横溢の形である

大會總裁に推戴する事に決定内交渉の結果青沼町長の快諾を得たので同大會の第一日第一戦は青沼大會總裁の試球式により開戦する事となつた。

龍生派生花 陳列大會

明日第一回總會
池坊龍生派石城支部創立第一回總會は明日十五日平町三町目マルトモホールに於いて家元吉村師以下地方會員百余名出席開催するが創立記念生花大會は今日十四日引續いてマルトモホールに開催中出品百点頗る盛況を呈してゐる。

鮮人を騙り 手數料を詐取

内妻の入籍手續をしてやるこ
當時内郷村大字小島字新町居住秋田縣秋田郡早口村生れ佐藤象藏(五二)は隣家に住んでゐる鮮人労働者日本名高田仙吉(二九)の内縁の妻清水セキ(二五)兩名に入籍の手續きをしてやるから稱し手數料三圓を詐取した事平署の探知するところとなり十四日檢擧されたが象藏は此の外附近に居る鮮人岩本清一郎からも同様手段で五圓を詐取した外無智な鮮人を巧みにあざむいて子女を周旋してやるからと稱し手數料詐取を専門にしてゐたものらしく引續いて取調中。

鹿島村道 改修竣工

鹿島村では今年度救済事業として工費九百圓を投じ村道五百米の改修工事中であつたが昨十三日竣工した。

破成したので來十七日午前八時此のケーソン沈下式を行ふ事になつたが右ケーソンは總量千二百噸の龐大なものである。

記者團敗る

對小名築港戰
平記者團對小名築港事務所の野球戦は十三日午後三時から小名築港小學校庭で舉行三對一で記者團破れた。

最近ツルヤ商店の名義を使用して寶石、貴金屬其他の賈造物を持參して訪問販賣するものあり其筋より注意がありましたから之等不正販賣人の口車に乗り賈造品の買取なきざる様御注意申上げます、もし右様の者が参りました時は警察署へ御知らせ下さい。

ツルヤ商店デハ
一、訪問販賣ハ絶対致シマセン
一、全商品ニ正札ヲ付テ居リマス
一、全店員ガツルヤノマークヲ付テ居マス
右の点に特に御注意下さい

御客様
平
ツルヤ

磐城鐵工同業組合
かまはこ製造
折詰仕出し

吉原揚 藤市
さつま揚
電話三〇五番

石城郡の事業界
 代表的會社と商店その他
 附……その經營に活躍する人々
 (その一)

磐城炭礦株式會社

資本金一千余萬圓年産額八十万噸

石城産業界の誇り

磐城炭礦の存在は石城の誇りであるばかりでなく約五千名の職員その他従業員を有し家族を合すれば二萬余名となり平町を主とした石城郡一帯が磐城炭礦から利益を蒙る事夥しいものがあり、この点に於て地方民はその存在に満腔の感謝を表さねばならぬ。現在資本金一千七拾五萬圓の大磐炭王國の詳細を記す前に創業當時から現在までの経過を記す要がある。



長社現野淺

「磐城炭礦は明治十六年淺野澤から現小野田炭礦を開発したのが出現の最初で當時既に科學的經營を創始して全國石炭業者を驚かした。明治十八年資本金四萬圓(一萬二千圓拂込)の株式會社となつたが明治二十一年までは創業當時の千圓位欠損を續け漸く明治二十二年下半期に三千七百圓の利益をあげる事が出来た。

その後事業進歩發展し明治二十五年小野田礦から小名濱港まで延長八哩の軌道を開通し小名濱港から汽船で東京横濱方面に石炭を供給するやうになつてから利益も増加し同下半年始めて株主に五分の配當をなした。明治二十六年資本金を四十萬圓とし翌年小野田礦坑を開坑、明治二十九年小野田―湯本間二哩の專用鐵道成り、明治三十年常磐線開通して以來販路擴張し業績が一刷新した。即ち同下半年には一割二分を配當しその後大

磐城の黄金時代

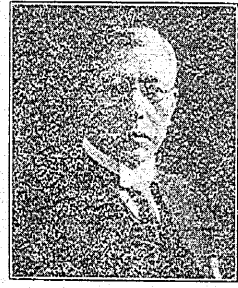
地方民の蒙つた利益

大正六、七、八の三年間は實に磐城の黄金時代であつた。大正六年歐洲戰爭の影響をうけ石炭の需要増加し炭價暴騰し六年上半期には三割、下半年には五割の配當を行ひ、七年には五割と四割、八年には三割五分の配當をなした。その頃の平町が如何なる景況であつたかは讀者の記憶に残つてゐる事であらうが之れ好況の炭礦によつて恵まれ



(菅原所長)

正五年まで一割五分乃至二割の配當が當り、當が繼續した。明治三十一年には内郷炭礦を開坑内郷間の專用鐵道布設、大正四年には三星炭礦を買収、大正七年には綴製所、平發電所等を設備し全く大炭礦の面目を施すに至つた。



務專川前

に不況時代を現出するに至り事百回、遂年我國石炭資源減少の經濟界の曲折に遭遇し乍らも叫ばるゝ今日埋藏量四億噸と會社當局では銳意事業の擴張設言はれ前途益々有望視されるの備の充實を計り今日に至つては石城として頼もしい極みであるが、創始以來決算期を閲する。

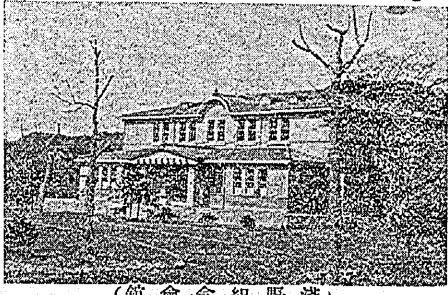
従業員的生活慰安に

二万余の従業員家族を

いたはる會社當局

淺野紀念會館の出現

二萬余名の従業員家族を有する開始し磐城炭礦では生活の利便のためた處總遺贈なき設備を施し全體的に約計九百萬を垂れてゐる。即ち用品は會社二十八に於て直營の物品販賣所を設け圓に達廉賣し、風紀秩序を維持するたした。四ヶ所に請願巡査を設け、又炭礦當社内に勞務課及び巡視係員を置局では、尙ほ私設消防隊を編制し非故翁の常時に備えてゐる。家族の疾病徳をし負傷治療のため四ヶ所に病院をのぶ勞設け醫師十七名、産婆、看護婦働者の四十名を常置してゐる等炭礦界純情がの弱者に相應しいものがあるが、かくまで熱のある事を喜び會社に特筆すべき事は従業員の慰不足を密附し總計金二萬四千安樂、修養機關として建設し圓で昭和七年九月に完成した。五淺野紀念會館であらう。昭和のこの種の會館として理想な山従業員一が翁が死去するの紀の建築である。會社では一般念事業を計劃し鐵夫世話役の修養に資するため活動寫眞、名他が發起となり職員賛同を得たの講演等を催はしてゐる。一口十錢以上の寄附金募集を



(館會念紀野淺)

緻密な頭腦の持主

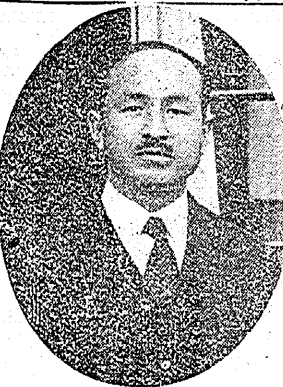
礦業 菅原萬次郎氏

所長菅原萬治郎氏は岩手縣膽澤で第一線に活躍してゐた當時の郡前澤村の生れ本年五十一歳、氏は早くも重役級から認められ一の關中學を終えて仙臺高等工將來を嚆目されてゐた。當時の業學校採掘冶金科に入り明治四關係者が語つてゐる。昭和四年十三年の第一回卒業生。同年入室所長の後をうけて遂に礦業山炭礦に入社大正三年技師とな所長に拔擢され今日に至つてゐり會社のため活躍したが大正六が、爾來今日まで全山従業員年同社を退き磐城炭礦に入つた悉く氏の徳を慕ひ慈父の如く敬緻密な頭腦の持主で且つ非凡の慕されてゐるのは氏の人格の賜手腕家であるから抗内係長として會社のため喜びに堪えない。

温情の人……

事務部長 濱崎善三郎氏

事務部長濱崎善三郎氏は熊本縣が當を得てゐた結果だとされて人本年四十二歳、大正七年東大を卒業し、即ち濱崎氏は稍もする法科を首席で卒業した法學士、と非難され勝ちであつた。温情主義を勞働運動に對する唯一の同年直ちに磐城炭礦に入り今日方法と信じ他くまで所信を斷行に至る。大正十一年庶務課長となつたが當時勞働運動が勃發しし争議を解決した事は一般の知る處で、之が今日の磐城をして思想的に平和ならしめた所以であることされてゐる。昭和七年九月事務部長に拔擢され庶務課長を兼務し、更に本年四月勞務課長をも兼ね菅原所長と共に會社の代表者として重きをなすに至つた。



(濱崎事務部長)

出した時なので會社では新たに勞務課を設け濱崎氏を課長として之に當らしめた。濱崎氏の優れた手腕は勞務課時代に絶大な賞讃を博したもので今日に於て思想的反亂者が同會社がら影を消したのは當時の濱崎氏の處置されてゐる。

第一線で奮闘する

礦業所の代表者

磐城炭礦は淺野社長、渡邊、前事務部長濱崎善三郎氏等の奮闘川兩專務並に取締役、監査役の努力と卓越した手腕を見逃して全部が我國に於ける實業界の大はならぬ。五千名の従業員が一立物であるが、磐城をして今日系亂れ統制の下に確實な操業の發展隆盛を現出せしめ更に將を續け磐城が炭界の霸王と稱されを期待されてゐるのを知る時れてゐる裏面には右兩氏等の人事業の第一線である礦業所に於知れぬ苦心が潜んでゐる事であらう。